

## 第八節 葬儀

纏頭回

葬喪の形式に就ては、新疆の各種族共に、敢て甚だしき異觀なきが如し。

纏頭回の死せし時は、親族及び近隣の男女相集り、皆白布の帽を冠し、大聲を發して慟哭す。屍體は能く水にて洗滌し、美服を着けしめ、敢て棺槨に入れず。唯白布を以て之を纏ひ、讀經の後、墓所に埋葬す。墓所は高地を擇び、或は土を盛り、或は石を疊みて碑を建て、或は墓碑の周圍に土塀を築く等、一般に死者の墓碑に出資を惜まず。屍體を埋葬すれば、家に阿渾を招きて讀經し、死者の遺物を衆人に分ちて冥福を祈る。死後第四十日に弔祭を行ふ、此時、富者は競馬會を催すことありといふ。

蒙古族

天葬、地葬、水葬

蒙古族即ち喇嘛教徒の葬式は、大に回部と其の趣を異にせり。即ち死體を革袋に收め、喇嘛僧を招きて讀經し、家族は死者の周圍に坐て號哭す。此の如きもの數日始て之を葬る。其の法式に、天葬、地葬、水葬の三あり。天葬は、死體を空中に懸け鳥に啄ましめ、地葬は地に委して、犬に喰はしめ、水葬は河中に投じて、魚族に飽かし